

近年、大阪市内の河川の水質が大幅に改善していることは、確認種数や「きれいな水質の指標種」の確認地点数の増加となって表れています。しかし、水質改善だけで多様な生物が生息できるわけではありません。淀川・大和川・神崎川上流では、多くの種の魚類の繁殖や、エサ場となる浅瀬、隠れ家となる水草、石のすき間があるなど、生物にとって住みやすい環境にあるため、確認種数が多くなっていますが、道頓堀川のような垂直護岸の河川では、水質改善は進んでいるものの確認種数は比較的少ない状況です。

市街地の河川に生息する生物



ワンド

明治初期から昭和初期にかけて、大阪と京都を結ぶ航路として淀川の改修工事がなされたときに造られた水制(川に突き出した石組み)がもとになってできた河川敷の池のことです。本流には見られない多様な環境が見られ、多様な種の魚類や貝類、水辺の植物を見ることができます。



③ 遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があり、環境の変化や病気が広がっても絶滅する可能性が低くなります。



② 生物多様性から受けるめぐみ

人間は地球に生きる3,000万種ともいわれる生物の一つの種であり、人間を含むすべての生物は、他の多くの生物と大気・水・土などで構成される環境の中で相互に関わり合って生きています。

人間の生存基盤		
安全な生活	有用な価値	豊かな文化
<ul style="list-style-type: none"> ・災害抑制 ・水源確保 ・病害虫抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料 ・工業材料 ・医薬品 ・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽 ・絵画 ・短歌、俳句

(出典: 環境省「いのちはつながっている」)

もし、この地球から森や小鳥、魚や昆虫などが消えてしまい、人間だけが残ったと想像してみたらどうでしょう。立派なビルやインターネットなどのITシステムが残っていても、人間は生きていけません。生物多様性は、人間が生存するのに欠かせない土台なのです。

① 「いのち」を支える生物多様性

植物が酸素をつくり、森林や湿原が水を蓄えたりするなど、生命が成り立つ土台である大気や水は、多くの生き物の営みによって支えられています。



② 「くらし」を支える生物多様性

食べ物はもちろん、木材や医薬品なども生物多様性（種の多様性や遺伝子の多様性）がもたらすめぐみで支えられています。



生物多様性のめぐみ

2015年にノーベル生理・医学賞を受賞された山村智さんは、熱帯の寄生虫による恐ろしい風土病から2億人の命を救いました。その病気の治療薬は土の中から発見されたある種の微生物(細菌)をもとに開発されました。まさに生物多様性からのめぐみだったのです。